

授業計画(シラバス)

科目名	憲法	指導担当者名	穴戸 幸
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	社会で生きる上で必要な法律の基礎知識を習得しながら、憲法や関連する法律の理解を深める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	霜島 秋則著 教職・教養のための日本国憲法入門 ジアース教育新社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	17	憲法の意味	1.日本国憲法を読む 2.憲法の意味と解釈
	18	憲法の変遷と基本原理	3.日本国憲法の歴史 4.国民主権の原理と天皇制 5.平和主義
	19	人権編	6.基本的人権の原理・保障と限界
	20	人権編	7.基本権
	21	人権編	8.内心の自由
	22	人権編	9.人身の自由
	23	人権編	10.経済的自由
	24	人権編	11.社会権
	25	人権編	12.国務請求権
	26	人権編	13.国会
	27	人権編	14.内閣
	28	人権編	15.裁判所
	29	人権編	16.地方自治と財政
	30	違憲審査制度	17.違憲審査制度
31	憲法改正	18.憲法改正	
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	情報リテラシー	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	パソコンをはじめとする情報機器を実際に操作し、活用できる能力を身につける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	よくわかるMicrosoftWord2016 & MicrosoftExcel2016 & MicrosoftPowerPoint2016 FOM出版		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	PC操作	<Windowsの概要>Windowsの基本的な操作を理解する
	2	PC操作	日本語入力システムの利用方法を理解する
	3	PC操作	タッチタイピングトレーニング
	4	PC操作	インターネットの仕組み、活用方法、検索エンジンの利用方法を理解する
	5	PC操作	電子メールの仕組み、メールの送受信、データの添付を理解する
	6	PC操作	<ワープロソフトの概要> ワープロソフトの起動、終了、画面構成について理解
	7	Word	ワードを使って簡単な文書の作成、編集する能力を身につける
	8	Word	ワードにて作成した文書を編集する能力を身につける
	9	Word	文書に罫線や表を追加する能力を身につける
	10	Word	文書にイラストや画像ファイルを追加する能力を身につける
	11	Word	はがきや文書を作成する能力を身につける
	12	PowerPoint	<プレゼンテーションソフト>プレゼンテーションソフトを使って発表資料を作成する能力を身につける
	13	PowerPoint	<プレゼンテーションソフト>プレゼンテーションソフトを使って発表資料を作成する能力を身につける
	14	PowerPoint	プレゼンテーションソフトの操作方法、活用方法を理解する
	15	PowerPoint	プレゼンテーションソフトの操作方法、活用方法を理解する
	16	Excel	<表計算ソフトの概要>ブックやシートの操作、データ入力、コピー、移動方法を理
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	情報リテラシー	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験: 無し
開講時期	前期	対象学科学年	1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	パソコンをはじめとする情報機器を実際に操作し、活用できる能力を身につける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	よくわかるMicrosoftWord2016 & MicrosoftExcel2016 & MicrosoftPowerPoint2016 FOM出版		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	Excel	計算式の入力方法を理解する
	18	Excel	関数を使って合計や平均を求める方法を理解する
	19	Excel	日付、条件判定、端数処理などの関数の活用方法を理解する
	20	Excel	エクセルデータを基に、基本的なグラフを作成する能力を身につける
	21	Excel	エクセルデータを基に、応用的なグラフを作成する能力を身につける
	22	Excel	データベース機能を理解し、活用できる能力を身につける
	23	Excel	複数のワークシートの連携方法を理解する
	24	Excel	条件付き書式、SmartArtグラフィックス、入力規則などを理解する
	25	演習	ワード、エクセルを活用し、実際に「園だより」を作成する
	26	演習	ワード、エクセルを活用し、実際に「園だより」を作成する
	27	演習	ワード、エクセルを活用し、実際に「園だより」を作成する
	28	演習	ワードを使って文書を作成し、より実践的な活用方法を身につける
	29	演習	エクセルを使ってワークシートを作成し、より実践的な活用方法を身につける
	30	演習	ワード、エクセルを組み合わせた文書作成し、より実践的な活用方法を身につける
31	演習	演習	
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン	指導担当者名	堀越啓子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者としての立ち居振る舞い、資質を磨く。 ・社会人としての立ち居振る舞い、資質を磨く。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	保育者のためのお仕事マナーBOOK 学研		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	ビジネスマナー	出会い・第一印象
	2	ビジネスマナー	挨拶の仕方・立ち居振る舞いなど
	3	ビジネスマナー	正しい言葉遣いと敬語
	4	保育者とは	保育者としての心構え
	5	保育者とは	保育者の身だしなみ・服装など
	6	保育者とは	保育者として成長するために
	7	保育者として	保護者対応とは
	8	保育者として	電話対応の仕方と実践
	9	保育者として	病気やケガや事故の対応
	10	保育者として	礼状の書き方
	11	ビジネスマナー	席次など
	12	ビジネスマナー	SNS・Facebook・LINE・twitterについて
	13	ビジネスマナー	社会人としてのおもてなし
	14	実践実技	社会人としてのおもてなし
	15	実践実技	心の保ち方
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション技法	指導担当者名	高階 裕美
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	人と人とのコミュニケーションを円滑に行うための基本を理解し、豊富な事例演習を通して、コミュニケーションを図るための実践方法を身に付ける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	必要に応じてプリント配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	1.グループでコミュニケーションしてみよう 2.コミュニケーションの基本を知る
	2	コミュニケーションの基本を身につけよう	1.コミュニケーションと話し上手 2.あいさつ
	3	きれいな発声・発音を身につけよう	1.自分の話し方を見直そう 2.きれいな発声・発音を身につけよう
	4	正しい日本語を見につけよう	1.現在の日本語を考える 2.正しい言葉遣い
	5	保育の基本用語	1.基本用語を理解する 2.意味の確認
	6	保育の基本用語	3.基本用語の漢字活用
	7	話すときの心構えを理解しよう	1.プレゼンテーションしてみよう 2.聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	8	効果的な話し方を身につけよう	1.効果的に話すとは 話の構成
	9	効果的な表現力を身につけよう	1.態度面が話の効果を決める 2.目線・アイコンタクト
	10	効果的な表現力を身につけよう	3.表現力を高めるジェスチャー
	11	話し上手の総合演習	1.演習
	12	聞くことの重要性	1.「きくこと」とは 2.聴く態度を身につけよう
	13	聞くことの重要性	3.聴き上手になる話しの聴き方 4.話しを促進する聴く技術
	14	聞き上手の総合演習	1.演習
	15	各種コミュニケーション場面とポイント	1.報告、説得、商談・交渉、取材する(インタビューとヒアリング) プレゼンテーショ
	16		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	英語コミュニケーション		指導担当者名	鈴木 麻友子
実務経験	JICAにて訓練所コーディネーター(英語)、外資系企業にて品質管理(英語)、プロスポーツチームにて外国人選手対応など			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	日本の保育園や幼稚園にも、さまざまな文化背景を持った外国人の子どもたちが増えているという現状を踏まえて、異文化間のコミュニケーションの基礎を学ぶ。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	赤松直子他著 保育の英会話 萌文書林			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	Unit 1	1.保育の英会話への第一歩	
	2	Unit 2	1.みんなと保育園によこそ!	
	3	Unit 3	1.時間と数	
	4	Unit 4	1.地図と道案内	
	5	Unit 5	1.クラスメイトとの出会い	
	6	Unit 6	1.デイヴィーの登園と降園	
	7	Unit 7	1.保育者の仕事	
	8	Unit 8	1.昼食	
	9	Unit 9	1.排泄に関する会話	
	10	Unit 10	1.けんか	
	11	Unit 11	1.けがと病気	
	12	Unit 12	1.電話での対応	
	13	Unit 13	1.遠足	
	14	Unit 14	1.赤ちゃんのケア	
	15	Unit 15	1.卒園	
	16			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	健康科学	指導担当者名	古市 勇介
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<p>・今日、私たちの取り巻く社会や環境、生活の変化は私たちの健康に多大な影響を及ぼしている。本講義では、そのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	オリエンテーション	健康科学とは
	18	現代社会における体育教育	教育と体育・体育の立場から見た人間の発達
	19	現代社会と健康	わが国の健康と社会
	20	運動の生理	呼吸・循環・筋肉・神経・内分泌
	21	運動の基礎理論	体力の概念・トレーニング理論・ウォーミングアップとクーリングダウン
	22	生活と運動	現代生活と運動不足・生活習慣病・ダイエット
	23	運動処方	メディカルチェック
	24	健康な生活の設計 期末試験	薬物・アルコール・たばこ健康・ストレス・青少年の性とエイズ
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p>履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ実技	指導担当者名	古市 勇介
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:○
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身につけることを目的とする ・講義では、健康と安全に留意しながら対人的・集団的のスポーツを楽しむことができます ・作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学び、各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	特に無し		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	17	オリエンテーション	スポーツ実技の受講心構えとスポーツ競技運営について学ぶ
	18	準備運動・ストレッチ	準備運動やストレッチの仕方を学び実践する
	19	バスケットボール	ルールの説明、基礎技能
	20	バスケットボール	グループ練習・試合
	21	バレーボール	ルールの説明、基礎技能
	22	バレーボール	グループ練習・試合
	23	卓球	ルールの説明、基礎技能
	24	卓球	グループ練習・試合
	25	バドミントン	ルールの説明、基礎技能
	26	バドミントン	グループ練習・試合
	27	バスケットボール・バレーボール・卓球・バドミントン	グループ練習・試合
	28	バスケットボール・バレーボール・卓球・バドミントン	グループ練習・試合
	29	バスケットボール・バレーボール・卓球・バドミントン	グループ練習・試合
	30	バスケットボール・バレーボール・卓球・バドミントン	グループ練習・試合
31	まとめ	まとめ	
32	期末試験	期末試験	
<p>履修上の留意点</p> <p style="padding-left: 20px;">出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	保育原理	指導担当者名	園谷厚子
実務経験	保育現場で保育士・総合病院小児病棟で医療保育専門士としての勤務経歴あり		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	子どもをめぐる環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学びます。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本について理解し、保育の内容と方法の基本を学びます。さらに、保育の思想と歴史の変遷について学んだ上で、保育の現状と課題について学ぶ		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	みらい つながる保育原理		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講義の概要と趣旨 保育原理とは
	2	第1章 保育の原理 保育の根っこにあるもの	保育の理念と概念
	3	第2章 子どもの育ち子どもとは、発達とは	発達の原理
	4	第3章 保育の行われている場所 保育施設をめぐる仕組み	主な施設の種類—施設型保育
	5	第4章 保育の基本 保育所保育指針をもとに	保育所保育指針の制度的位置づけ
	6	第5章 乳児のねらいと内容と方法 乳児と1.2歳児	3歳未満児の保育をめぐる現状
	7	第6章 保育のねらいと内容と方法 3歳以上児	3歳以上児の保育をめぐる状況
	8	第7章 乳幼児の終わりまでに育て欲しい姿 小学校との接続	子どもの発達と学びの連続性
	9	第8章 保育の計画 教育課程・全体的な計画と カリキュラム・マネジメント	保育における計画とは
	10	第9章 保育の専門家への道 これからの保育者論	保育者に求められる専門性
	11	第10章 子育て支援 保護者と地域とのコミュニケーション	子育てをめぐる家庭と社会の状況
	12	第11章 海外の保育思想と歴史	海外の保育思想都歴史を学ぶ意義
	13	第12章 日本の保育思想と歴史	古代から昭和までの保育
	14	第13章 保育の現状と課題	世界と日本の保育の現状と課題
	15	まとめ	総復習
	16	期末試験	期末試験
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	教育原理	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	保育現場で保育者として20年間従事した経験		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育とは何だろう」の問いかけからスタートし、学び、教え、育てることの意味についての理解を深める ・幼稚園・保育所・小学校との連携や生涯学習社会を視野に入れながら幼児教育の役割に触れることにより教職への関心意欲を高めるとともに、教育についての基本知識の習得を図る 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	新基本保育シリーズ2 教育原理 中央法規		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	教育の意義	保育者になるための教育と学び 教育とは何か
	18	教育の目的	教育目標の設定 教育理念と教育目的・教育目標
	19	乳幼児期の教育の特性	乳幼児期の発達の特徴 幼児教育の基本
	20	教育と子ども家庭福祉の関連性	児童福祉法と保育士 児童福祉から子ども家庭福祉へ
	21	人間形成と家庭・地域社会	教育基本法や保育所保育指針と家庭、地域社会地域の保育所保育
	22	諸外国の教育思想	世界ではじめての絵本 近代と教育
	23	諸外国の教育の歴史	諸外国における公教育の発展 公教育の発展
	24	日本の教育思想・歴史	江戸時代中期ごろまでの教育 江戸時代後期の情勢と教育
	25	子ども観と教育観	日本・西洋における近代的孩子観の登場と歴史的変遷
	26	教育制度の基本	教育制度の起こり、近代教育の起こり、教育制度 教育の権利・教育委員会・義務
	27	教育の法律と行政	教育を規定する法律 日本国憲法・教育基本法・学校教育法
	28	諸外国の教育制度	アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、フィンランド、中国、韓国
	29	教育実践の基礎	カリキュラム わが国の保育内容
	30	さまざまな教育実践	フレーベル理論・モンテッソーリ理論に基づく幼児教育
31	生涯学習社会における教育の現状と課題	生涯学習概念の発展	
32	期末試験	期末試験	
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こども家庭福祉		指導担当者名	高階 裕美	
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経験有り			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	こども保育科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	子ども家庭福祉は、現代社会の子育ての多様化の中で子どもの育ちが十分に守られていない現実を知り、子どもを大事にする社会としての保育者の役割を学ぶこととともに、子どもの権利が確立してくる歴史、子ども家庭に関する制度や現場の取り組みを理解し、子どもの理解と家庭への援助の内容や方法を学び保育者としての見識を養成することを目的とする。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	中央法規 基本保育シリーズ 児童家庭福祉				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	こども家庭福祉の理念と概念	1.児童家庭福祉の学び方、理解するための方法、基本構造 2.児童という対象の		
	2	歴史の変換と諸外国の動向	1.児童家庭福祉の歴史的展開 2.社会的支援 3.新たな貧困への対応		
	3	こどもの人権擁護と児童家庭福祉	1.児童の人権擁護の歴史、権利に関する条約 2.保育の専門職と倫理		
	4	児童家庭福祉の制度と実施体制	1.児童家庭福祉の法制度 2.児童家庭福祉の実施体制		
	5	施設と専門職	1.児童福祉施設の種類、設置・運営 2.専門職 3.入所のしくみ		
	6	少子化と地域子育て支援	1.少子高齢化社会 2.地域子ども・子育て支援事業 3.子育て支援の課題		
	7	母子保健と児童の健全育成	1.母子保健の意義 2.児童健全育成の意義 3.サービスの動向・課題		
	8	多様な保育ニーズへの対応	1.保育ニーズに対応するためのしくみ 2.教育施設・保育施設 3.障害児支援		
	9	児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス	1.児童虐待の定義 2.防止と支援		
	10	貧困家庭、外国籍のこどもと家庭への対応	1.子育て世代の貧困 2.子どもの貧困対策とひとり親家庭への支援		
	11	社会的養護	1.社会的養護とは 2.社会的養護の施設等		
	12	障害のあるこどもへの対応	1.障害児の福祉 2.障害児支援の背景 3.障害児支援とポイント		
	13	少年非行等への対応	1.少年非行の状況 2.児童自立支援施設・少年院		
	14	次世代育成支援と児童家庭福祉の推進	1.次世代育成支援としての児童家庭福祉 2.認定こども園と「幼保連携」という考え		
	15	地域における連携とネットワーク	1.「連携」の必要性和と目的と場面 2.ネットワークとは		
	16	期末試験	期末試験		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない					

授業計画(シラバス)

科目名	社会的養護 I		指導担当者名	高階 裕美	
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経歴有り			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	こども保育科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	社会的養護を必要とする子どもの現状と援助の実際をととして、この原理を学び、児童の社会的養護の意義と保育者の役割を理解する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	みらい×子どもの福祉 ブックス 社会的養護				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	17	社会的養護の基本原則とその現状	1.社会的養護とは何か 2.基本理念と原理、現状		
	18	社会的養護の歴史	1.社会的養護の歩み(日本)		
	19	社会的養護の歴史	2.社会的養護の歩み(外国)		
	20	子どもの権利擁護	1.こどもの権利、取り組み		
	21	社会的養護の体系と実践	1.社会的養護に関わる法律 2.施設養護と家庭養護		
	22	社会的養護の領域	1.乳児院 2.母子生活支援施設		
	23	社会的養護の領域	3.児童養護施設		
	24	社会的養護の領域	4.児童心理治療施設 5.自立援助ホーム		
	25	社会的養護の領域	6.里親 7.ファミリーホーム		
	26	社会的養護の領域	8.障害児入所施設 9.児童発達支援センター		
	27	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理	1.社会的養護に関わる専門職		
	28	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理	2.専門機関と連携		
	29	社会的養護とソーシャルワーク	1.ソーシャルワークの必要性		
	30	社会的養護とソーシャルワーク	2.ケースワークとグループワーク		
31	施設の運営管理	1.施設運営			
32					
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない					

授業計画(シラバス)

科目名	保育者論	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	保育現場で保育者として20年間従事した経験		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の制度的位置づけを理解し、専門性について考え理解する ・今日的課題としての諸問題について考慮し理解する ・保育者の専門職成長について理解する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	新基本保育シリーズ7 保育者論 中央法規		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	保育者の役割	保育士の役割 保育所の役割 保育所保育士の専門性と役割・職務内容
	2	保育者の倫理	専門的倫理と法律 保育所保育士の専門的倫理
	3	保育者の資格と責務	保育士の定義 幼稚園教諭の職務
	4	保育者の資質と能力	保育士の資質・能力 幼稚園教諭に求められる資質・能力
	5	養護および教育の一体的展開	保育所保育における「養護」と「教育」 幼稚園の「教育」
	6	家庭と連携と保護者に対する支援	家庭との連携の必要性 保護者への支援の必要性
	7	計画に基づく保育の実践と省察・評価	保育の計画 保育の実践と省察
	8	保育の質の向上	集団で行なう保育について 保育の質を向上するということ
	9	ほいくにおける職員間の連携・協働	協働の第一歩は組織体制の構築 保育における職員間の連携
	10	専門職間および専門機関との連携・協働	専門職間の連携・協働 専門機関との連携・協力
	11	地域社会との連携・協働	子どもを取り巻く社会 自治体との連携
	12	関係機関等の連携	地域型保育事業の概要 保育事業の認可基準
	13	資質向上に関する組織的取り組み	資質向上とは
	14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	保育者としての専門性の向上 保育者の専門性
	15	保育におけるリーダーシップ	保育所保育指針における職員の資質向上の基本 リーダーの役割
	16	期末試験	
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育の心理学	指導担当者名	富森崇
実務経験	専門学校でのカウンセリング、保育所でのカウンセリングなど心理業務の経験有り		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	発達心理学では、子どもたちが取り巻く環境と密接な相互の関わりを通じて発達していくことを理解していくことが必要である。そのために、心理学におけるものの見方、考え方を学ぶことを目的とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	みらい シリーズ知野ゆりかご 保育の心理学		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	子どもの発達	子どもの発達の理解と意義 子どもの発達と環境
	18	子ども観と保育観の変遷	初期体験と生涯発達 子ども観と保育観の変遷
	19	社会情動的発達①	自己の発達 第一次反抗期
	20	社会情動的発達②	情動の発達 情動調整の発達
	21	身体機能と運動の発達	身体的機能の発達 運動機能の発達
	22	認知の発達	ピアジェの発達理論・心の理論・学習理論
	23	言葉の発達	言葉の発達とコミュニケーション
	24	子どもの臨床的問題①	臨床的問題に必要な配慮 障害が明らかになる過程
	25	子どもの臨床的問題②	子どもの発達理解の方法 障害の特徴と対応
	26	乳幼児期の学びに関わる理論①	愛着とは 愛着の発達と援助
	27	乳幼児期の学びに関わる理論 2 遊び	遊びと学び 仲間関係の発達遊びが育む心の発達 ①社会性
	28	乳幼児期の学びに関わる理論 2遊び	遊びが育む心の発達②道徳性 遊びが育む心の発達③想像力
	29	乳幼児期の学びの過程と特性	乳幼児期の学びの過程 乳幼児期の学びの特性
	30	乳幼児期の学びを支える保育	養護と教育が一体的に展開する保育 学びの芽生えを育むために
31	乳幼児期の学びを支える保育	保護者への支援	
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こども家庭支援の心理学	指導担当者名	堀越啓子・菊池信太郎
実務経験	保育園・幼稚園など保育現場で20年経験		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.乳幼児期から老年期までの生涯発達について学ぶ 2.家族・家庭・親子関係・家族関係を学び、家庭の支援について考える 3.子育てに関する現状と課題について学ぶ 4.子どもの精神保健と課題について学ぶ		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	中央法規 子ども家庭支援の心理学		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	家族・家庭の意義と機能	・家庭・親族・世帯とは ・家族の定義、機能の変化
	2	家族・家庭の意義と機能	・支援者として家庭にどう向き合うか ・環境としての家庭
	3	家族関係・親子関係の理解	・家族のライフサイクル ・家族の関係を円環的に理解する
	4	家族関係・親子関係の理解	・親子関係への支援
	5	子育ての経験と親としての育ち	・子どもをもつことについての意義 ・園における子育て支援
	6	乳幼児期の発達	・発達の原理と段階
	7	学童から高齢期の発達	・発達の原理と段階
	8	特別な配慮を要する家庭 子どもの心の健康に関わる問題	・特別なニーズを必要とする家庭への支援と保育者に与える影響と対処するためのセルフケアの必要性 ・子どものこころの健康の課題について
	9	子育ての経験と親としての育ち	・地域における子育て支援
	10	子育てを取り巻く社会的状況	・出産・子育てをめぐる状況
	11	子育てを取り巻く社会的状況	・要保護児童と家庭への支援
	12	ライフコースと仕事・子育て	・女性・男性のライフコースの歴史的变化と特徴
	13	多様な家庭とその理解	・多様な家庭、多様な家族
	14	多様な家庭とその理解	・子どもと家庭を取り巻く様々な課題
	15	子どもの生活・生育環境とその影響	・子どもの育ちの基本
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの理解と援助	指導担当者名	堀越啓子・菊池信太郎
実務経験	保育園・幼稚園など保育現場で20年経験		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	子どもの発達や学びに関する心理学の知見を、保育者が実践に即して使いこなせるようにする		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	中央法規 子どもの理解と援助		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	保育における子どもの理解と意義	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の仕事と子ども理解 ・保育所保育指針と子ども理解
	18	子どものかかわりと共感的理解	<ul style="list-style-type: none"> ・共感的理解とは ・カウンセラーに求められる本質的態度
	19	子どもの生活や遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の生活と基本的な生活習慣の獲得 ・乳幼児期の遊び
	20	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と保育者の役割 ・環境としての自らの立ち位置を考える ・保育者のかかわりで子どもが変わる
	21	発達の課題に応じた援助とかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差と発達過程 ・発達の最近接領域 ・発達の課題に応じた保育実践
	22	子ども相互のかかわりと関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児におけるかかわり ・4歳以上児におけるかかわり ・子ども相互のかかわりを生み出すもの
	23	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な配慮を要する子どもとは ・特別な配慮とインクルーシブ保育 ・特別な配慮を要する子どもを理解する方法
	24	集団における経験と育ち	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス集団との出会い ・遊び集団の成立過程 ・異年齢集団のなかでの子どもの育ち
	25	発達の連続性と就学への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小接続期における子どもの発達と学びの連続性
	26	発達における葛藤やつまずき	<ul style="list-style-type: none"> ・葛藤やつまずき ・いざこざの発達の变化と保育者の援助 ・自我の発達にかかわるつまずきと保育者の援助
	27	保育の環境の理解と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・環境とは ・子どもと環境 ・保育者と環境 ・環境構成の原則
	28	環境の変化や移行	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化や移行とは ・さまざまな環境の変化や移行の場面 ・環境の変化や移行に影響する要因
	29	子ども理解のための観察・記録と省察・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における「子ども理解」とは ・子どもを理解する方法
	30	子ども理解のための職員間の対話	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における対話と協働 ・対話の機会を生む保育カンファレンス
31	子ども理解のための保護者との情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との情報共有の意義 ・子ども理解のための保育者と保護者との情報共有の方法 	
32			
<p>履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの保健	指導担当者名	園谷厚子
実務経験	保育現場で保育士・総合病院小児病棟にて医療保育専門士の勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	子どもの身体の発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解する。 ・子どもの健康状態の把握とかかりやすい病気の特徴を理解する。 ・保育における環境整備・安全管理・衛生管理について理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	中央法規 基本シリーズ こどもの保健		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	17	オリエンテーション 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的	保健活動から見た生命の保持と情緒の安定 養護と教育を一体的に行う 他
	18	健康の概念と健康指標	健康の概念とヘルスプロモーション 健康指標 他
	19	現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策	現代社会と子どもの健康 母子保健法 他
	20	地域における保健活動と子ども虐待防止	保健行政施策の体系と地域保健 児童虐待とは
	21	身体発育及び運動機能の発達と保健	身体発育の過程 臓器の発育様式
	22	生理機能の発達と保健	呼吸器系 循環器系 消化器系 腎・泌尿器系
	23	発育発達の把握と健康診断	園における発育発達のみかた 保育士による発育・発達の把握
	24	保護者との情報共有	気づきについて 気づきを整理する
	25	主な疾病の特徴①新生児の病気、先天性の病気	新生児の病気 新生児の理解 他
	26	主な疾病の特徴②	循環器、呼吸器、呼吸器、血液、消化器の病気
	27	主な疾病の特徴③	免疫 腎・泌尿器 内分泌
	28	主な病気の特徴④	神経中枢の病気 運動器の病気 皮膚の病気 目・耳の病気
	29	主な疾病の特徴⑤	感染症理解の基本 感染症法と学校感染症
	30	子どもの疾病の予防と適切な対応	定期健康診断 日々の健康観察 感染症の予防
31			
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育の計画と評価	指導担当者名	堀越啓子
実務経験	保育園・幼稚園など保育現場で20年経験		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	保育におけるカリキュラムの概念、とらえ方を歴史的、理論的に学習しながら、保育カリキュラムの編成の意義、内容、方法について理解することを目的とする。具体的には、「保育所保育指針」の理解、保育(教育)課程と指導計画など多様な保育の計画の種類とその内容などの学習をすすめる。その上で、保育カリキュラム編成の基本を理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	中央法規 教育・保育カリキュラム論		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	保育における計画の意義	・計画はなぜ必要か ・子どもの主体性を尊重した保育 ・計画のための要点
	2	日本におけるカリキュラムの基礎理論	・幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について
	3	子ども理解に基づく保育の環境	・これから求められる教育の方向性
	4	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型	・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格
	5	幼稚園の教育課程の編成の基本原理と方法	・幼稚園における幼児教育 ・幼稚園教育要領における教育課程と全体的な計画
	6	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成	・全体的な計画とは ・全体的な計画とその他の計画との関係性
	7	幼稚園の指導計画の作成	・指導計画の必要性 ・指導計画の関係性 ・指導計画作成上の留意事項 ・指導計画作成のポイント
	8	保育所・認定こども園の指導計画の作成	・指導計画の必要性 ・指導計画作成上の留意事項
	9	保育の評価	・保育における評価とは ・保育者による評価と方向づけ ・子どもの育ちを肯定的に見る
	10	指導計画の書き方	・指導計画とは ・指導計画の必要性 ・幼児教育の新たな視点
	11	0歳児の指導計画	・乳児の発達の特徴と配置 ・乳児の生活と計画
	12	1歳以上3歳未満児の指導計画	・1歳以上3歳未満児の理解と保育内容 ・保育所保育指針における「1歳以上3歳未満児の保育」
	13	3歳児・4歳児の指導計画	・指導計画作成の基本
	14	5歳児の指導計画	・5歳児の発達の特徴と保育者の配置 ・5歳児の発達に関する「保育内容」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
	15	小学校との接続	・乳幼児期の教育から小学校教育接続を考える ・乳幼児期から大学までの体系的な教育の実施
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育内容総論	指導担当者名	園谷厚子
実務経験	保育現場で保育士・総合病院小児病棟にて医療保育専門士の勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	保育所・幼稚園における保育の基本について理解する。また乳幼児期の発達過程を学び園での生活や遊びを理解する。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	中央法規 基本保育シリーズ 保育内容総論		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	中央法規 基本保育シリーズ 保育内容総論	保育所の役割
	18	保育の全体構造と保育内容の理解②教育	保育所保育指針第2章(保育の内容)の概要
	19	子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的	乳幼児期における発達
	20	子どもの主体性を尊重する保育	子どもを「主体として尊重する」
	21	生活や遊びによる総合的な保育 個と集団の発達を踏まえた保育	乳幼児期の学びとしての遊び
	22	家庭や地域等との連携をふまえた保育	保育課程・子どもの生活や発達と連動した保育課程・ 生活習慣 の自立に向けた保護者との協働
	23	長時間の保育	長時間の保育の現状
	24	多文化共生の保育	保育における多文化共生の保育
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと健康	指導担当者名	園谷厚子
実務経験	保育現場で保育士・総合病院小児病棟で医療保育専門士としての勤務経歴あり		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	幼稚園・保育所における「心身の健康」について、活動の内容・環境の構成・援助のあり方について学ぶ。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指針ハンドブック		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション 健康とは 子どもの心の発達	保育内容「健康」についての授業のオリエンテーション 保育教育と「健康」他
	2	領域健康について	保育所保育指針、幼稚園教育要領「健康」についての理解
	3	遊び:室内での遊び 運動遊び	マット・平均台・跳び箱・ボール遊びの方法
	4	遊び:室内での遊び	玩具を使った遊び
	5	遊び:園外活動	散歩の方法・園外活動
	6	基本的な生活習慣 安全管理と安全教育の必要性	基本的な生活習慣の形成とは 睡眠 食事 排泄 衣服 衛生
	7	安全管理と安全教育の必要性	保育における安全の重要性 安全管理と事故防止
	8	安全教育 まとめ	視診・生活のルール 家庭との連携 園の生活
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと人間関係	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	保育現場で保育者として20年間従事した経験		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	・領域「人間関係」について、乳幼児期の人間関係の発達の特性を踏まえて、人との関わり方を育むために、保育における指導法を実践的に理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	保育の基本と人とのかかわり	「生きる力」の原点としての人間関係 ひとのかかわりの基礎を育てるとは
	18	乳幼児期における人とのかかわりの発達	年齢別による人とのかかわり
	19	遊びのなかで育つ人とのかかわり	人のかかわりと遊び 遊びのなかでの人のかかわり
	20	人のかかわりを育てる保育の実践	子どもの気持ちに向き合うとは 子どもたちの関係を育てる保育とは
	21	人のかかわりを育てる保育者の役割	理解し、援助するものとしての役割 人間関係をどのように記録するか
	22	人のかかわりが難しい子どもへの支援	悩む親を支える 気になるときが保育を見直すとき ささまざまな連携
	23	園、家庭、地域の生活と人のかかわり	生活と人のかかわり
	24	領域「人間関係」をめぐる諸問題 期末試験	自我の育ちと自己抑制 自立と他律の関係 個人としての自立と集団としての自立
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと環境	指導担当者名	堀越啓子
実務経験	保育園・幼稚園など保育現場で20年経験		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.子どもを取り巻く環境(人的、物的、自然、社会、文化など)について関心をもつ 2.環境にかかわりながら遊ぶ子どもたちの育ちを支える保育者の役割を知る 3.学生自身が自然など身近な環境、素材(教材)などにふれ、遊ぶことによって、環境構成の大切さを知る		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	保育所保育指針解説書 配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	環境とは	・子どもと環境 ・環境にかかわる力と好奇心・探求心
	18	人と関わる力はなぜ必要なのか	・友だちや保育者とかかわる ・自然の不思議さに触れる ・命を感じる環境
	19	ものや道具に関わる力はなぜ必要なのか	・園具・教材・教具の意味と役割 ・ものや道具を使って ・文字・記号・数量・形・時間・季節にかかわる ・地域の文化にかかわる
	20	どうやって環境を構成していけばいいのか	・環境構成とは ・環境構成の実際
	21	子どもにとって安全な環境づくりとは	・安全能力の形成 ・防災教育の実際 ・食と農の現状 ・食育とは
	22	身近な植物への関心を高めるにはどうすればいいのか	・自然の中の身近な植物 ・春・夏・秋・冬の花や野菜の栽培活動
	23	身近な小動物への関心を高めるにはどうすればいいのか	・子どもと虫・鳥・小動物 ・飼育活動の現状と課題
	24	領域「環境」の実践力は、どうやって高めていけばいいのか	・隠れたカリキュラム ・子どもを見る、理解するという事
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと言葉	指導担当者名	高階 裕美
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	乳幼児が言葉をどのように獲得していくかを学ぶとともに、乳幼児期に言葉が豊かに育ち、心豊かに生活できるよう援助する力を養う。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	保育所保育指針解説書 配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	領域「言葉」	幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本、しくみ
	2	領域「言葉」	保育所保育指針、幼稚園教育要領 言葉の領域について
	3	こどもの言葉の発達	0～2歳児の言葉の発達
	4	こどもの言葉の発達	3～5歳児の言葉の発達
	5	こどもの言葉の発達	発達と支援
	6	保育の内容「言葉」	乳児保育に関わるねらい及び内容
	7	保育の内容「言葉」	1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容
	8	保育の内容「言葉」	3歳以上児の保育に関するねらい及び内容
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと造形表現 I	指導担当者名	大町 亨
実務経験	絵画教室や専門学校での指導に従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.素材・技法に関する基本的な理解をもつ 2.保育者としての造形表現力を深め、造形表現活動の援助に必要な実践力を身につける		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	萌文書林 保育をひらく造形表現		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	造形表現の意義	・保育における造形表現の意味 ・自分を感じる一身体感覚を豊かにする
	18	造形表現の意義	・感性をみがく一環境とのかかわりを深める ・心をひらく一ありのままである自由感
	19	造形を楽しむための造形	・点と線を遊ぶ・空間のマジック・色の探検 ・形の発見・錯覚の再発見・版の不思議
	20	造形を楽しむための造形	・紙の変身一平面と立体・紙の技一伝える・演じる ・いろいろな素材を使って(ビニール・ひも・新聞紙・生活素材など)
	21	子どもの造形表現の発達	・自然素材のめぐみ ・グループ製作活動・造形表現の発達論
	22	子どもの造形表現の発達	・子どもの描画の特徴とその背景・発達に即した援助 ・発達過程に見られる個人差
	23	造形表現指導の実際	・指導のねらい・保育者の役割 ・指導形態
	24	造形表現指導の実際	・間接的な援助・直接的な援助 ・テスト
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン	指導担当者名	堀越啓子
実務経験	保育園・幼稚園など保育現場で20年経験		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者としての立ち居振る舞い、資質を磨く。 ・社会人としての立ち居振る舞い、資質を磨く。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	保育者のためのお仕事マナーBOOK 学研		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	ビジネスマナー	出会い・第一印象
	2	ビジネスマナー	挨拶の仕方・立ち居振る舞いなど
	3	ビジネスマナー	正しい言葉遣いと敬語
	4	保育者とは	保育者としての心構え
	5	保育者とは	保育者の身だしなみ・服装など
	6	保育者とは	保育者として成長するために
	7	保育者として	保護者対応とは
	8	保育者として	電話対応の仕方と実践
	9	保育者として	病気やケガや事故の対応
	10	保育者として	礼状の書き方
	11	ビジネスマナー	席次など
	12	ビジネスマナー	SNS・Facebook・LINE・twitterについて
	13	ビジネスマナー	社会人としてのおもてなし
	14	実践実技	社会人としてのおもてなし
	15	実践実技	心の保ち方
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと造形表現Ⅱ	指導担当者名	大町亨
実務経験	絵画教室や専門学校での指導に従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できることを目標にします。 2.形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができることを目標にします。 3.子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標にします。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	紙の使った制作	・子どもの製作活動と発達を理解する ・紙の種類・特質 ・材料と子どもの製作活動を考える
	18	紙の使った制作	・制作
	19	日用品・廃材による製作	・廃材による制作とは ・制作
	20	日用品・廃材による製作	・制作
	21	絵具やクレヨンを使った制作	・絵の具やクレヨンの特性を知る ・制作
	22	絵具やクレヨンを使った制作	・制作
	23	色々な素材に親しむ制作	・粘土などの素材や特徴を知る ・制作
	24	色々な素材に親しむ制作	・まとめ ・テスト
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもとリズム表現	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	ピアノ教室を経営のほか幼児教育機関、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の内容を理解し、子どもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術が習得できる ・表現する力を育てるための手法を身体表現、音楽表現の分野から実践を通して習得できる ・表現する力を育てるための保育者の役割と援助の在り方を、習得できる 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	領域「表現」についての基本的な考え方	保育所保育指針、幼稚園教育要領における領域「表現」
	2	表現する力を育てるための実践方法	身体表現(ウォーキング、リズムパターンの理解)
	3	表現する力を育てるための実践方法	身体表現(ホップ、リズムパターンの理解)
	4	表現する力を育てるための実践方法	身体表現(ギャロップ、ジャンプ、ターンの理解)
	5	表現する力を育てるための実践方法	パネルシアター製作
	6	表現する力を育てるための実践方法	パネルシアター製作
	7	表現する力を育てるための実践方法	パネルシアター発表
	8	表現する力を育てるための実践方法 期末試験	創作ダンス発表
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	乳児保育 I	指導担当者名	園谷厚子
実務経験	保育現場で保育士・総合病院小児病棟にて医療保育専門士の勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	乳児の発達を理解し、人としてひとり立ちできる過程を学ぶ。また、保育者としてどのような援助や関わりが必要であるかを考え、乳児の保育を学ぶ。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	中央法規 乳幼児保育 I・II 保育所保育指針ハンドブック		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	17	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷	乳幼児保育の定義・乳児保育の意義と目的
	18	乳児保育及び子育て家庭に対する吾支援をめぐる	乳児保育及び子育て家庭に対する吾支援をめぐる社会的状況と課題
	19	保育所における乳児保育	保育所の位置づけや役割
	20	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における	保育所の位置づけや役割
	21	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育	家庭的保育・小規模保育における乳児保育
	22	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の	子育て支援の現状
	23	3歳未満児の生活と環境	乳児保育における生活の場としての環境の整え方
	24	3歳未満児の遊びと環境	環境を通して行う保育
	25	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	乳児保育の前提を確認する
	26	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による	保育所保育指針改定にみる保育の特性と援助の実際
	27	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における	保育全般に関わる配慮事項
	28	乳児保育保計画・記録・評価とその意義	保育の計画と実践
	29	保育の計画と実践	乳児保育における保育者の業務と役割
	30	保護者との連携・協働	保育全般に関わる配慮事項
31	自治体や地域の関係機関等との連携・協働	保育所と地域の社会資源	
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育実習指導 I	指導担当者名	國分 千恵 高階 裕美
実務経験	保育現場で保育者として20年間従事した経験		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義や目的・実習姿勢について理解する ・保育実習の計画や記録が記述できるようにする ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	実習の記録と指導案 ひかりのくに		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	オリエンテーション 保育実習の目的と概要	実習の意義と目的について
	18	福祉職としての保育士	子どもの権利条約 全国保育士会倫理綱領
	19	保育実習の心構えと準備	実習の進め方・段階について 実習生としての心構え、守秘義務
	20	保育実習の記録	保育実習の記録とは
	21	実習課題	実習課題のとは 実習課題の立て方のポイント
	22	保育所実習① 保育所の役割	一日の保育の流れと保育の展開
	23	保育所実習② 保育所における子ども理解	乳児期の子ども 幼児期の子ども
	24	保育所実習③ 保育所保育士の職務理解	子どもを保育すること 職員間の連携について 保護者との連携について
	25	保育所実習④ 保育所における計画と実践	保育計画に基づく指導案の作成 環境構成・保育者の援助、配慮の記入方法
	26	保育所実習⑤ 保育環境と安全	子どもの生活と保育環境
	27	施設実習① 施設保育士の役割と機能	保育所保育士の業務 家庭支援 自立支援
	28	施設実習② 児童福祉施設における留意点	児童養護施設について
	29	施設実習③ 障害児者施設における留意点	障害児施設について 障害者施設について
	30	実習後の学び	グループワーク、個別指導による振り返り、報告会
	31	全体総括(福祉施設)	総括、評価、自己課題の明確化
32	期末試験		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	子どもと音楽 I	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	ピアノ教室を経営のほか幼児教育機関、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	・保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できるよう技術と音楽的知識を習得する		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業内容説明、学習方法、基礎知識などの説明
	2	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	3	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	4	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	5	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	6	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	7	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	8	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	9	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	10	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	11	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	12	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	13	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	14	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	15	ピアノ練習	幼児曲の弾き歌い
	16	期末試験	期末試験
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育方法論	指導担当者名	高階 裕美
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	保育方法の定義・意義など大きな概念についての基礎知識を習得し、更に保育の目標・内容・評価との関係性についての理解を深める。また、保育現場における保育・教育の諸問題に対応していく具体的な援助方法や活用方法についての理解を深めることを目的とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	必要に応じてプリント配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	17	保育方法とは何か	教育方法の定義・意義
	18	保育所保育指針	保育所保育指針とは
	19	幼稚園教育要領	幼稚園教育要領とは
	20	保育・教育現場の理解	乳幼児期の教育・保育方法の特質・注意点
	21	保育・教育現場の理解	計画・援助方法・評価について
	22	乳幼児期の発達について	0.1歳児の発達と援助方法について
	23	乳幼児期の発達について	2.3歳児の発達と援助方法について
	24	乳幼児期の発達について	4.5歳児の発達と援助方法について
	25	指導案について	指導計画の意義・留意点
	26	保育方法について	立案方法・実践への留意点①
	27	保育方法について	立案方法・実践への留意点②
	28	保育方法について	立案方法・実践への留意点③
	29	保育方法について	立案方法・実践への留意点④
	30	保育方法について	立案方法・実践への留意点⑤
31	まとめ	まとめ	
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究 I	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	4単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	保育研究 I について	保育研究 I について
	2	FSG保育園見学	FSG保育園見学
	3	制作	製作の基本
	4	教材研究	絵本・紙芝居について
	5	教材研究	パネルシアター・ペープサートについて
	6	教材研究	絵本100冊作成
	7	FSG保育園見学	FSG保育園見学
	8	制作	保育教材研究
	9	制作	保育教材研究
	10	FSG保育園見学	FSG保育園見学
	11	制作	保育教材研究
	12	制作	保育教材研究
	13	制作	保育教材研究
	14	FSG保育園見学	FSG保育園見学
	15	制作	保育教材研究
	16	実践	わらべうた
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	保育研究 I	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有り
開講時期	前期	対象学科学年	1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	4単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	実践	わらべうた
	18	実習事前指導・準備	指導案・日誌について
	19	幼稚園見学実習	幼稚園見学実習
	20	幼稚園見学実習	幼稚園見学実習
	21	実践	わらべうた
	22	制作	保育教材研究
	23	実習事前指導・準備	指導案・日誌について
	24	幼稚園見学実習	幼稚園見学実習
	25	幼稚園見学実習	幼稚園見学実習
	26	実践	わらべうた
	27	実習事前指導・準備	指導案・日誌について
	28	幼稚園見学実習	幼稚園見学実習
	29	幼稚園見学実習	幼稚園見学実習
	30	実践	わらべうた
31			
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	ピアノレッスン I	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	ピアノ教室を経営のほか幼児教育機関、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	・保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識の習得ができることを目標とする		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	17	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明
	18	練習	幼児曲弾き歌い
	19	発表	幼児曲弾き歌い
	20	練習	幼児曲弾き歌い
	21	発表	幼児曲弾き歌い
	22	練習	幼児曲弾き歌い
	23	発表	幼児曲弾き歌い
	24	練習	幼児曲弾き歌い
	25	発表	幼児曲弾き歌い
	26	練習	幼児曲弾き歌い
	27	発表	幼児曲弾き歌い
	28	練習	幼児曲弾き歌い
	29	発表	幼児曲弾き歌い
	30	練習	幼児曲弾き歌い
31	発表	幼児曲弾き歌い	
32	期末試験		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	社会福祉論	指導担当者名	高階 裕美
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	保育に携わる職種を目指す人たちが「社会福祉」とは何かを理解し、その概念の中での自分たちの位置や役割を認識し、具体的に行動できるための基礎を築く。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	新基本保育シリーズ 社会福祉		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	社会福祉の理念と歴史的変換	1.社会福祉の概念と理念 2.歴史的変換と現代的課題
	2	こども家庭福祉と社会福祉	1.社会福祉の専門職としての保育士 2.家庭支援と支援活動
	3	社会福祉の制度と法体系	1.法律と制度、活用
	4	行財政と実施機関	1.社会福祉行政と福祉事務所 2.福祉の財政と社会福祉施設
	5	社会福祉の専門職	1.専門職の構造 2.社会福祉に関する資格
	6	社会保障および関連制度	1.社会保障制度 2.分野別保障と役割
	7	福祉六法	1.福祉六法と仕組み
	8	相談援助の理論、意義	1.相談援助の体系化 2.特徴、原則、意義と機能
	9	相談援助の対象と過程	1.保育における相談援助
	10	相談援助の方法と技術	1.相談援助の体系化方法・技術への理解の必要性 2.援助技法
	11	社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み	1.権利擁護 2.情報提供と情報公開
	12	少子高齢化社会における子育て支援	1.少子高齢化の現状と課題
	13	共生社会の実現と障害者施策	1.障害の捉え方 2.インクルージョンの理念
	14	在宅福祉・地域福祉の推進	1.地域福祉の理念 2.保育所における子育て支援の機能と特性
	15	諸外国の社会福祉動向	1.社会福祉と福祉国家 2.諸外国の歴史と動向
	16		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	家庭支援論	指導担当者名	堀越啓子
実務経験	保育園・幼稚園など保育現場で20年経験		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.子ども・家庭・家族・子育ての基本的な考え方について学ぶ。 2.子育て家庭の支援体制(制度・社会資源)について理解する。 3.子育て家庭支援の方法について学ぶ。 4.多様な子育て家庭支援の実践事例について考察する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	中央法規 子ども家庭支援の心理学		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	家庭支援の対象と役割	・家庭支援が求められる背景と意義 ・家庭支援の構造
	2	家庭支援の対象と役割	・家庭支援の理念 ・家庭支援の技術
	3	家庭支援の対象と役割	・サービス拠点、目的で見た家庭支援の類型
	4	家族・家庭の意義と機能	・家庭・親族・世帯とは ・家族の定義、機能の変化
	5	家族・家庭の意義と機能	・支援者として家庭にどう向き合うか ・環境としての家庭
	6	家族関係・親子関係の理解	・家族のライフサイクル ・家族の関係を円環的に理解する
	7	家族関係・親子関係の理解	・親子関係への支援
	8	子育ての経験と親としての育ち	・子どもをもつことについての意義 ・園における子育て支援
	9	子育ての経験と親としての育ち	・地域における子育て支援
	10	子育てを取り巻く社会的状況	・出産・子育てをめぐる状況
	11	子育てを取り巻く社会的状況	・要保護児童と家庭への支援
	12	ライフコースと仕事・子育て	・女性・男性のライフコースの歴史的变化と特徴
	13	多様な家庭とその理解	・多様な家庭、多様な家族
	14	多様な家庭とその理解	・子どもと家庭を取り巻く様々な課題
	15	子どもの生活・生育環境とその影響	・子どもの育ちの基本
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの保健Ⅱ		指導担当者名	園谷厚子
実務経験	保育現場で保育士・総合病院小児病棟で医療保育専門士としての勤務経歴あり			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)	
学習到達目標	子どもの保育・教育にあたり、知ってなければならない子どもの疾患、事故、心身障害について身につける。それぞれの対応や援助の方法や、予防策や家庭、他の職種の人々との連携について考える。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	中央法規 基本哺育シリーズ こどもの保健Ⅰ			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション 主な疾患の特徴	こどもの保健Ⅱのオリエンテーション 目で見ることの保健DVD アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気	
	2	主な疾患の特徴	脳の病気その他の疾患	
	3	主な疾患の特徴	感染症予防	
	4	子どもの疾病の予防と適切な対応	感染症予防 予防接種	
	5	病気の子どもの保育と家庭支援	国の施策に見る病気の子ども・家族に対する支援体制	
	6	子どもの生活環境と精神保健	子どもの育ちの基本	
	7	子どもの心の健康とその課題	発達障害の子どもたち	
	8	子どもの心の健康とその課題	生活から見る子どもの課題	
	9	保育環境整備と保健・保育現場における衛生管理	保育環境整備の意義	
	10	子どもの事故の現状と課題	子どもの事故の現状	
	11	子どもの事故の現状と課題	保育現場における事故の現状	
	12	事故・けがに対する応急処置・救命処置	骨折・捻挫・脱臼に対する応急処置(RICEO法)	
	13	職員間の連携と組織的取り組み	一人で解決しようとする・保育所だけで解決しようとする	
	14	母子保健対策と保育	母子保健とその歴史	
	15	家庭専門機関・地域との連携	地域における子ども子育て家庭を対象とした支援事業実績	
	16			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの保健Ⅲ	指導担当者名	影山かほる
実務経験	看護師として勤務後看護教諭の経験あり		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	こどもの保育・教育にあたり、知ってなければならない子どもの疾患、事故、心身障害について身につける。それぞれの対応や援助の方法や、予防策や家庭、他の職種の人々との連携について考える。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	ななみ書房 こどもの保健Ⅱ		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	第1章 保健活動の計画と評価 第2章 こどもの保健と環境	こどもの保健に対する個別対応
	18	第1章 保健活動の計画と評価 第2章 こどもの保健と環境	子どもの生活習慣と心身の健康
	19	第1章 保健活動の計画と評価 第3章 こどもの保健と環境	子どもの発達援助と保健活動
	20	第3章 こどもの疾病と適切な対応 第4章 事故防止および健康管理・安全管理	感染症の予防と対策
	21	第3章 こどもの疾病と適切な対応 第5章 事故防止および健康管理・安全管理	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
	22	第3章 こどもの疾病と適切な対応 第6章 事故防止および健康管理・安全管理	子どもに起きやすい事故の応急手当 子どもに起こりやすい症状とケア
	23	第5章 心とからだの健康問題と 地域保健活動	子どもの療育環境と心の健康問題
	24	第5章 心とからだの健康問題と 地域保健活動	心と体の健康図栗と地域保健活動
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの食と栄養	指導担当者名	庄司由美子
実務経験	施設での管理栄養士として勤務経験有り		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ 2.子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める 3.食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する 4.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ 5.特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	子育て・子育てを支援する こどもの食と栄養 大塚周二他著 萌文書林		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	子どもの健康と食生活の意義	1.「子どもの食と栄養」を学ぶ目的 2.子どもの心身の健康と食生活 3.子どもの食生活の現状と課題
	2	子どもの発育・発達と食生活	1.身体発育・精神・運動機能発達と栄養・食生活 2.食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活
	3	栄養に関する基本的知識	1.栄養素・栄養生理・代謝に関する基本的知識 2.日本人の食事摂取基準の意義とその活用
	4	子どもの発育・発達と食生活 妊娠期(胎児期)の食生活	1.献立作成・調理の基本 2.妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活 3.妊娠期・授乳期の栄養・食生活
	5	子どもの発育・発達と食生活 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	1.妊娠期にみられる主なトラブルと栄養・食生活 2.母乳分泌と食生活、妊娠期・授乳期の嗜好品 3.乳児期の心身の特徴と食生活の関係
	6	子どもの発育・発達と食生活 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	1.乳汁栄養1.離乳の意義とその実践 2.乳児期の栄養上の問題と健康への対応
	7	子どもの発育・発達と食生活 幼児期の心身の発達と食生活	1.幼児期の心身の特徴と食生活の関係 2.幼児期の食機能の特徴とその実践 3.間食の意義とその実践 4.お弁当
	8	子どもの発育・発達と食生活	1.幼児期の食生活上の問題と健康への対応 2.学童期・思春期の心身の特徴と食生活
	9	子どもの発育・発達と食生活 生涯発達と食生活	1.学童期・思春期の栄養上の問題と健康への対応 2.学校給食1.生涯発達と加齢変化、成人期の食生活の問題と健康への対応 3.高齢期の食生活上の問題と
	10	食育の基本と内容	1.「食育」とその謳われる背景 2.食育における養護と教育の一体性 3.食育の内容と計画および評価
	11	食育の基本と内容	1.食育のための環境づくり 2.地域の関係機関や職員間の連携 3.食生活指導および食を通じた保護者への支援
	12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	1.家庭における食事と栄養 2.児童福祉施設における食事と栄養
	13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 疾病および体調不良の子どもへの対応	1.児童福祉施設における食事と栄養 2.子どもの疾病の特徴と食生活 3.小児に多い疾病・症状と食生活
	14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギーのある子どもへの対応	1.食事療法1.食物アレルギーとは 2.食物アレルギーの治療
	15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 障がいのある子どもへの対応	1.障がいの特徴と食生活 2.摂食・嚥下機能障がい児の食生活の実践
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもの音楽表現	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	ピアノ教室を経営のほか幼児教育機関、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に、保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識が理解できる ・基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムで関わる事が可能となる ・基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、鍵盤楽器を中心とした楽器をアンサンブルすることによって、展開できるようにする 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	17	オリエンテーション 音楽理論	音のしくみについて
	18	音楽理論	音のしくみについて
	19	音楽理論	音のしくみについて
	20	音楽理論	楽器について(鍵盤ハーモニカ)
	21	音楽理論	楽器について(鍵盤ハーモニカ)
	22	音楽理論	楽器について(鍵盤ハーモニカ)
	23	音楽理論	楽器について(打楽器)
	24	音楽理論	楽器について(打楽器)
	25	音楽理論	楽器について(打楽器)
	26	音楽理論	楽器について(打楽器)
	27	こどもの身近な楽器とその演奏方法アンサンブル	鍵盤楽器、小物の楽器等 アンサンブル譜の読み方についての理解と簡単なアンサンブル譜を演奏練習
	28	こどもの身近な楽器とその演奏方法アンサンブル	鍵盤楽器、小物の楽器等 アンサンブル譜の読み方についての理解と簡単なアンサンブル譜を演奏練習
	29	こどもの身近な楽器とその演奏方法アンサンブル	鍵盤楽器・小物の楽器等 アンサンブル譜の演奏練習(グループワーク)
	30	こどもの身近な楽器とその演奏方法アンサンブル	鍵盤楽器・小物の楽器等 アンサンブル譜の演奏練習(グループワーク)
31	こどもの身近な楽器とその演奏方法アンサンブル	鍵盤楽器・小物の楽器等 アンサンブルの発表(グループワーク)	
32	期末試験		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	障害児保育	指導担当者名	高階 裕美
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	特別な支援を必要とする障害のある子どもについて理解し、保育現場での支援のあり方について様々な面から考える。障害の発見から療育のシステム、統合保育や就学に至る流れなど、現状と課題について学ぶ。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	ライフステージを見通した障害児の保育・教育		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	障害とは	1.障害のある人の歩み
	18	障害とは	2.発達と障害と保育・教育
	19	障害とは	3.障害と出会うということは
	20	障害児保育の基本	1.障害のある子どもの受け入れ 2.関わり方の基本
	21	障害児保育の基本	3.環境構成 4.指導計画の作成と記録・評価
	22	障害の理解と支援	1.発達障害
	23	障害の理解と支援	2.知的障害
	24	障害の理解と支援	3.言語障害 4.肢体不自由
	25	障害の理解と支援	5.聴覚障害 6.視覚障害
	26	障害の理解と支援	7.病弱 8.重複障害 9.福祉と教育の両方の視点を大切に
	27	発達を目指したさまざまな連携	1.地域・職種との連携
	28	小学校との接続	1.通常学級、通級、特別支援学級への接続
	29	思春期・青年期に向けて	1.障害のある子どもの生活
	30	これまでの障害児保育・教育	1.障害児保育・教育の歴史の変遷
31	これからの障害児保育・教育	1.インクルージョン	
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	社会的養護内容	指導担当者名	高階 裕美
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経験有り		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	少子社会の日本において、社会的養護のニーズは高まる一方である。その社会的養護の受け皿として中核を担っている児童養護施設を中心に、そこで生活する子どもの様子や支援する施設職員の役割について理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	保育士をめざす人の社会的養護内容		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	子どもの養護と保育士	1.養護問題と保育士 2.児童福祉の子どもたち
	18	施設養護のプロセスの理解	1.現状と問題点、視点、留意点
	19	保育士の基本的な社会的養護援助・支援	1.基本的な援助・支援 2.生活プログラムの作成
	20	こころの援助	1.こころの援助とは 2.子どもとのコミュニケーション
	21	親子関係の援助	1.援助姿勢と保育士の役割 2.チームアプローチ
	22	地域・学校との関係作り・整備の援助	1.施設と学校との連携 2.地域の関係づくり
	23	自己実現・自立への支援・援助	1.自立とはなにか 2.自立に向けた支援
	24	児童福祉施設の運営管理と保育士の資質と倫理	1.児童福祉施設で働くということ 2.保育士の倫理
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育教職実践演習	指導担当者名	堀越 啓子
実務経験	保育園・幼稚園など保育現場で20年経験		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.保育者としての使命感や責任感を高める。 2.多様な子ども、保護者に対応できるよう社会性や対人関係力を高める。 3.多様な子どもの育ちを的確に理解する力を身につける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	保育・教職実践演習 ミネルヴァ書房		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	保育者という職業	・保育者の意義 ・保育者に求められる資質と能力
	2	保育者という職業	・保育者になる-研修・研究の必要性-
	3	クラス経営	・クラスとクラス経営 ・担任の役割
	4	クラス経営	・クラス経営案作成上の留意点
	5	特別支援教育の基礎	・発達障害とは何か ・発達障害の共通点
	6	特別支援教育の基礎	・発達障害の諸障害及び知的障害の概要
	7	特別支援教育と保育者	・特別な教育ニーズを持つ子どもと保護者への対応
	8	特別支援教育と保育者	・特別な教育ニーズを持つ子どもと保護者への対応
	9	保育における集団の編成	・保育者における支援の留意点とポイント
	10	保育における集団の編成	・異年齢保育 ・統合保育
	11	保育における集団の編成	・幼児教育の将来的展望
	12	保育における集団の編成	・学びと発達の連続性からみた幼保小連携
	13	保育における集団の編成	・幼保小の滑らかな接続の為に
	14	今後の課題	・わたしの課題を文章化する
	15	今後の課題	・子どもの育ちを支える教師・保育士のために
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと言語表現	指導担当者名	高階 裕美
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経験有り		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	保育者としてどのような言葉を使用して、子どもに指導し、保育者、保護者に対して対応していけばよいのか、言葉のきまりをわきまえた基本的な言語の習得を目的とします。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	保育者になるための国語表現 萌文書林		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	言葉とは何か	文章表現と会話表現について、読むことと書くこと 話し方の基礎
	2	会話表現	敬語の使用法、日常の会話、簡単な自己紹介、電話のかけ方、受け方
	3	文章表現	絵本による文章表現
	4	えほんについて	ことばの習得と絵本
	5	えほんについて	絵本による成長と発達年齢の考察
	6	えほんについて	知識絵本、物語絵本、民話絵本について
	7	言語表現による指導法	絵本、紙芝居、お話し方の準備と留意点
	8	まとめ	言語表現の重要性
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	子どもと文化Ⅱ	指導担当者名	堀越啓子
実務経験	保育園・幼稚園など保育現場で20年経験		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.絵本、紙芝居、劇あそび、音楽遊びなど保育の場で使用される子どもの文化財の持つ意義を理解し表現する 2.保育の場で使用される文化財について、その内容及び保育技術を獲得できる 3.自分たちが表現する事で、子ども達の気持ちを理解し、子ども達へのかかわり方を学ぶ		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	授業中に資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	音楽遊びとは	・音楽遊びとは何か ・実際の音楽遊びの映像を見る
	18	音楽遊び	・わーお、キビタン体操、福島キッズマン、ラーメン体操、サンサン体操、ミッキー体操などを音楽に合わせて踊る
	19	音楽遊び	・グループ毎に音楽を決定、振付、衣装を考える
	20	音楽遊び	・振付、衣装制作、練習
	21	音楽遊び	・振付、衣装制作、練習
	22	音楽遊び	・発表
	23	劇遊びの構成	・劇遊びの題材を考える ・配役決定
	24	劇遊びの制作	・劇遊び準備・練習
	25	劇遊びの制作	・劇遊び準備・練習
	26	劇遊びの制作	・劇遊び準備・練習
	27	劇遊びの制作	・劇遊び準備・練習
	28	劇遊びの制作	・劇遊び準備・練習
	29	劇遊びの制作	・劇遊び準備・練習
	30	発表練習	・音楽遊び ・劇遊び
31	発表	・劇遊び発表・音楽遊び発表	
32			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと音楽Ⅱ	指導担当者名	二階堂恵美子
実務経験	自宅でピアノ教室を行っており学生指導を行っている		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	音楽に関する基本的な知識と技術を身につけ、それらに関する様々な活動を通して、楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な要因とを結びつけ、前年度に習得した「こどもと音楽Ⅰ」の教授内容を基盤に、より高度な目標を持って、授業を展開し、それらをさらに探求することにより、保育の現場における音楽表現力、指導援助力を深めていき、適応力のある指導者を養成することを目的とする		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	さしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明
	2	練習	こどもの歌の弾き歌い
	3	発表	こどもの歌の弾き歌い
	4	練習	こどもの歌の弾き歌い
	5	発表	こどもの歌の弾き歌い
	6	練習	こどもの歌の弾き歌い
	7	発表	こどもの歌の弾き歌い
	8	練習	こどもの歌の弾き歌い
	9	発表	こどもの歌の弾き歌い
	10	練習	こどもの歌の弾き歌い
	11	発表	こどもの歌の弾き歌い
	12	練習	こどもの歌の弾き歌い
	13	発表	こどもの歌の弾き歌い
	14	練習	こどもの歌の弾き歌い
	15	発表	こどもの歌の弾き歌い
	16		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと体育 I	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	保育現場で保育者として20年間従事した経験		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び(集団遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び)などを考え、学生を園児に見立て、グループで考案した運動遊びが指導できる ・具の安全性についての認識を深め、こどもたちが安全に遊べる指導ができる 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	授業時に適宜に参考資料を配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	こどもの発育発達	身体の発育発達 機能の発育発達 心の発育発達
	2	こどもと運動	乳幼児期の発達段階と運動 運動と人格的な発達
	3	こどもの動作の発育発達	動作の発達 運動発達のロバストネス
	4	こどもと環境	遊び環境の現状 こどもの遊びの世界
	5	運動遊びにおける援助者の役割	人的環境を整える 安全管理と安全教育
	6	運動遊びの実際	運動遊びの意義 遊具を使わない遊び 遊具を使う遊び
	7	こどもの遊びと遊具	遊具の種類と分類 遊具と運動機能
	8	園外保育と野外活動 期末試験	園外保育の意義 野外活動の意義
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと体育Ⅱ	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	保育現場で保育者として20年間従事した経験		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊びが考えられ指導できる ・運動遊びの指導法や必要な知識の習得が出来る 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	授業時に適宜に参考資料を配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	幼児期の運動遊びの体験の振り返り
	2	遊具を使った遊び	ボール・フープ・なわを使って遊ぶ 指導計画の立案
	3	遊具を使った遊び	指導計画の実践
	4	大型遊具を使った遊び	マット・平均台・跳び箱・鉄棒を使って遊ぶ 指導計画の立案
	5	大型遊具を使った遊び	指導計画の実践
	6	戸外遊び	すべり台・鉄棒・のぼり棒・砂場を使って遊ぶ 指導計画の立案
	7	戸外遊び	指導計画の実践
	8	伝承遊び 期末試験	新聞紙・おにごっこ・ゴム跳びの実践
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと造形表現 I	指導担当者名	大町亨
実務経験	絵画教室や専門学校での指導に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.素材・技法に関する基本的な理解をもつ 2.保育者としての造形表現力を深め、造形表現活動の援助に必要な実践力を身につける		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	萌文書林 保育をひらく造形表現		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	1章 造形表現の意義 2章 表現を育む人になる	1.保育における造形表現の意味1.自分を感じる一身体感覚を豊かにする
	2	1章 造形表現の意義 2章 表現を育む人になる	2.感性をみがく一環境とのかかわりを深める 3.心をひらく一ありのままである自由感 4.受け入れる一自分そして仲間を 5.子どもの心に還る一今ここに生きているということ
	3	3章 造形を楽しむための造形	1.点と線を遊ぶ 2.空間のマジック 3.色の探検 4.形の発見5.錯覚の再発見 6.版の不思議
	4	3章 造形を楽しむための造形	7.紙の変身一平面と立体 8.紙の技一伝える・演じる 9.ビニールの技一装う 10.ひもの技一編む・織る 11.新聞紙の挑戦 12.ダンボールの冒険 13.生活素材の変身
	5	4章 子どもの造形表現の発達	14.自然素材のめぐみ 15.グループ製作活動 1.造形表現の発達論
	6	4章 子どもの造形表現の発達	1.造形表現の発達論 2.子どもの描画の特徴とその背景 3.発達に即した援助 4.発達過程に見られる個人差
	7	5章 造形表現指導の実際	1.指導のねらい 2.保育者の役割
	8	5章 造形表現指導の実際	3.指導形態 4.間接的な援助 5.直接的な援助
	9	5章 造形表現指導の実際	6.模擬保育 7.表現の動機と意欲
	10	6章 保育をひらく造形カタログ	8.表現の個人差と読み取り 1.感性・イメージを豊かにする
	11	6章 保育をひらく造形カタログ	1.感性・イメージを豊かにする 2.遊びを豊かにするプログラム
	12	6章 保育をひらく造形カタログ	2.遊びを豊かにするプログラム 3.環境を豊かにする
	13	6章 保育をひらく造形カタログ	3.環境を豊かにする 4.行事を豊かにする
	14	6章 保育をひらく造形カタログ	4.行事を豊かにする 5.つくる体験を豊かにする
	15	7章 創造的な生活を楽しむ	1.野外でつくる・楽しむ 2.遊びをつくる・アートを楽しむ 3.地域をつくる・楽しむ
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	こどもと造形表現Ⅱ	指導担当者名	大町亨
実務経験	絵画教室や専門学校での指導に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できることを目標にします。 2.形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができることを目標にします。 3.子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標にします。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	紙を使った制作	・子どもの製作活動と発達を理解する ・材料と子どもの製作活動を考える ・紙の種類・特質
	2	紙を使った制作	・紙による制作
	3	紙を使った制作	・紙による制作
	4	紙を使った制作	・紙による制作
	5	日用品・廃材による製作	・牛乳パック制作
	6	日用品・廃材による製作	・牛乳パック制作
	7	日用品・廃材による教材研究	・段ボール紙制作
	8	日用品・廃材による教材研究	・段ボール紙制作 ・テスト
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育実習指導Ⅱ	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	保育現場で保育者として20年間従事した経験		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰで学んだことを発表会グループ討議をして振り返り、保育者としての知識、技術を習得する ・部分実習、責任実習に必要な指導案を立案したり、教材研究を行い、実習における事故課題を明確にする 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	実習の記録と指導案 ひかりのくに		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	保育実習Ⅱの目的と概要	保育実習Ⅱの意義と目的について
	2	保育実習の総合的な理解	専門性と職業倫理についての理解
	3	保育実習の総合的な理解	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
	4	保育実践力の育成	部分実習の指導計画の立案・準備
	5	保育実践力の育成	1日実習の指導計画の立案・準備
	6	保育実践力の育成	指導案の発表
	7	実習後の学び	グループワーク、報告会
	8	全体総括	今後の自己課題の明確化
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育実習指導Ⅲ	指導担当者名	高階 裕美
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経験有り		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	保育所以外の多様な種別の児童福祉施設や社会福祉施設が対象となる。児童福祉施設で養護の方法を知り、深め、保育士としての職務を身につける。また、職業実習として捉え、職業人として何が重要かという立場・心構えで施設実習を深める。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	必要に応じてプリント配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	実習Ⅲの意義
	2	保育実習による総合的な学び	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育と保護者支
	3	保育実践力の育成	子どもの状態に応じた適切な関わり 保育の表現技術を生かした保育実践
	4	計画と観察、記録、自己評価	保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
	5	計画と観察、記録、自己評価	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
	6	保育の専門性と職業倫理	保育の専門性と職業倫理
	7	事後指導における実習の総括と評価	実習の総括と自己評価
	8	事後指導における実習の総括と評価	課題の明確化
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅱ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者として従事した経験		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教材(紙芝居・絵本・パネルシアターなど)の研究、作成方法、作成、実演など総合的に学ぶ ・幼稚園や保育園で参加実習を行い自らの事前事後評価をし、改善に努める 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	授業時に適宜に参考資料を配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	製作の基本	お当番カードの作成
	2	保育教材研究	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサートなど実習に関する理解 指導案の作
	3	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
	4	保育教材研究	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサートなど実習に関する理解 指導案の作
	5	保育教材研究	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサートなど実習に関する理解 指導案の作
	6	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
	7	保育教材研究	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサートなど実習に関する理解 指導案の作
	8	保育教材研究	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサートなど実習に関する理解 指導案の作
	9	保育教材研究	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサートなど実習に関する理解 指導案の作
	10	保育教材研究	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサートなど実習に関する理解 指導案の作
	11	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
	12	保育教材研究	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサートなど実習に関する理解 指導案の作
	13	保育教材研究	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサートなど実習に関する理解 指導案の作
	14	保育教材研究	絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサートなど実習に関する理解 指導案の作
	15	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
	16		
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	PCスキルアップ講座	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	サーティファイが実施している各種Microsoftoffice検定の合格を目指しPCスキルの向上を目指す。 一年次に必修科目として受講している「情報リテラシーと処理技術」の内容をさらに発展させる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	Word2013、Excel2013、PowerPoint2013クイックマスター (株)ウイネット		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	練習問題1.2	Word PowerPoint
	18	練習問題3.4	PowerPoint Excel
	19	練習問題5.6	PowerPoint Excel
	20	練習問題7.8	Excel
	21	練習問題9.10	PowerPoint Excel
	22	練習問題11.12	Word PowerPoint
	23	練習問題13.14	Word PowerPoint
	24	模擬問題	USBメモリ保存・検定に向けた計測(45分)
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育研究 I	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育士としての勤務経験有り		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	2年間の集大成としての研究発表となるように、深く追求したいテーマを選び、研究、調査を実施することができる。また、研究、調査したものをまとめ発表することにより自信となり今後、保育者としてのさらに学び探究できるようにしていく。保育者に必要な資質・能力の育成、習得。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	配布教材		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	説明	卒業研究について 基礎的な説明(目的・日程等)
	18	研究	研究・調査方法の説明
	19	研究	研究テーマ・内容の検討
	20	研究	研究・調査実施
	21	研究	研究・調査実施
	22	研究	中間報告発表会
	23	研究	中間報告発表会
	24	研究	研究・調査まとめ
	25	研究	研究・調査まとめ
	26	研究	研究発表の準備作業・まとめ
	27	研究	研究発表の準備作業・まとめ
	28	研究	研究発表の準備作業・まとめ
	29	発表	卒業研究発表
	30	発表	卒業研究発表
31	まとめ	卒業研究発表・反省会	
32			
履修上の留意点 出席率が2/3を満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	相談援助	指導担当者名	高階 裕美
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	子育てに関する悩みや不安を抱える保護者の相談等を受ける際、また援助を行う際に必要な基本的知識を①理論②方法と技術③事例から学ぶ。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	小林育子他著 保育者のための相談援助 萌文書林		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	相談援助とは何か	相談援助の意味 相談援助の機能と方法 相談援助の原則と倫理
	2	相談援助者になるために	・自己覚知とは ・ワーク 私を知私という「私」 ・ワーク 私の価値観・他者を理解
	3	相談援助者になるために	・共感的理解 ・ワーク 価値観について考える ・ワーク 共感の体験(傾聴)
	4	相談援助者になるために	・保育活動における記録の意味 ・記録の書き方
	5	相談援助過程	インテークとアセスメント
	6	相談援助過程	援助計画・実施・評価
	7	児童虐待への対応事例	事例研究
	8	児童虐待への対応事例	事例研究、まとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	保育相談支援	指導担当者名	堀越啓子
実務経験	保育園・幼稚園など保育現場で20年経験		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	1.保育相談支援の意義と原則について理解する 2.保育相談支援の実際について学び内容・方法を理解する		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	(株)みらい 演習・保育と相談援助		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	保育と相談援助	・子ども・子育てで家庭の生活 ・生活課題の解決と相談援助 ・保育と相談援助
	18	相談援助の過程と連携	・相談援助とは何か・相談援助の進め方 ・相談援助の視点と展開 ・関係機関・専門職との連携
	19	相談援助者になるために	・自己覚知とは ・ワーク 私を知私という「私」 ・ワーク 私の価値観・他者を理解すること
	20	相談援助者になるために	・共感的理解 ・ワーク 価値観について考える ・ワーク 共感の体験(傾聴すること、されること)
	21	相談援助者になるために	・コミュニケーション(言語と非言語の学び) ・保育活動における記録の意味 ・ワーク 文語(書き言葉)で記述する ・客観的事実(エピソード)と主観(考察等)
	22	相談援助を行う前に	・生活課題の把握 ・ワーク 身近なところから生活課題を知る ・ワーク 子どもの様子から生活課題を考える ・社会資源の理解と活用
	23	事例検討の意義と方法	・さまざまな立場からのふりかえり
	24	事例検討の意義と方法	・保育事例についての事後評価
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率2/3に満たない場合は期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	教育実習指導	指導担当者名	高階 裕美
実務経験	保育現場で保育者・児童施設で施設保育士としての勤務経験有り		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	こども保育科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	1コマ(90分/コマ)
学習到達目標	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の発達の特徴や発達過程を踏まえ、観察の視点と方法、指導案の作成等を習得することを目的とします。また、実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にすることを目指します。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	必要に応じてプリント配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	・実習の意義と目的 ・実習の内容と方法	・実習とは何か、実習で学ぶこと ・観察・参加・責任実習
	2	教育課程・指導計画	長期指導計画 短期指導計画
	3	実習日誌の記録方法	環境構成、幼児理解、教師の援助の在り方
	4	実践的保育演習	絵本・紙芝居等の導入からの方法
	5	実践的保育演習	教育実習の意義と目的
	6	保育指導案の作成	指導案とは何か 3歳児の指導案立案
	7	保育指導案の作成	4歳児の指導案立案 5歳児の指導案立案
	8	実習指導 実習の振り返り	自己評価と課題
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が2/3を満たさない場合は期末試験の受験資格を与えない			